

早植え水稻の葉いもちとカメムシ類の発生情報について

1 早植え水稻地域における葉いもちの発生状況

8月7日の球磨郡における調査では、葉いもちの発生ほ場率は100%（昨年100%）、発病株率は56.7%（昨年67.8%）と昨年並～やや少ない発生でした（表-1, 4）。

8月8日の上益城郡における調査では、葉いもちの発生ほ場率は94%（昨年100%、平年78.1%）、発病株率は29.6%（昨年89.8%、平年43.9%）と昨年に比べやや少なく、平年並～やや少ない発生であった。また、全体的に上位葉での発病は殆ど確認されませんでした（表-2, 4）。

8月12日の阿蘇郡における調査では、葉いもちの発生ほ場率は88%（昨年56%、平年67.6%）、発病株率は13.9%（昨年3.3%、平年16.1%）と昨年に比べやや多く、平年並～やや多い発生でした。また、一部の常発地域では、上位葉での発病や穂いもちの発生も確認されました（表-3, 4）。

穂いもちの防除は「穂孕み期」から「穂揃い期」にかけて行いますが、葉いもちの発生が多いほ場では「穂孕み期」と「穂揃い期」に2回防除します。多発年次には傾穂期の臨機防除も必要です。

2 早植え水稻地域における斑点米カメムシ類の発生状況

8月7～12日、早植え水稻地域の22地点44ほ場ですくい取り調査を行いました。調査した時期のイネの出穂状況は穂孕み期～乳熟期であったため、斑点米カメムシ類の発生に地域間差やほ場間差が見られました。特に、阿蘇地域では、乳熟期を迎えたほ場が多く、アカスジカスミカメが比較的頻繁に捕獲されました。しかし、全般的に、早植え水稻地域の斑点米カメムシ類の発生は少なく、例年通りの発生であると思われます（表-5）。

水田の近辺にイネ科雑草やイタリアンライグラスなどのイネ科牧草がある場合には、発生源管理を徹底し、水田への侵入を防止しましょう。